

(N)

PAT-NO: JP358161067A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 58161067 A

TITLE: PRICE LEADING SYSTEM OF AUTOMATIC AUCTION  
MACHINE

PUBN-DATE: September 24, 1983

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

TAKAHASHI, TAKATSUGU

MAEJIMA, NOBUYUKI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

TOUKIYOUTO CHIYUUKOSHIYA OROSHIURI

JIGIYOU KYODO KUMIAI

FUJITSU KIDEN LTD

COUNTRY

N/A

N/A

APPL-NO: JP57043781

APPL-DATE: March 19, 1982

INT-CL (IPC): G06F015/21, G07C013/00

US-CL-CURRENT: 705/37

ABSTRACT:

PURPOSE: To set a price flexibly and effectively, by providing a memory where a market price is stored, and comparing the market price and an auction price with each other, and raising the auction price until the auction price exceeds the market price.

CONSTITUTION: The market price calculated by a computer (CPU) 18 is applied to a switching circuit 21 of a price leading device 19 of an auction machine body 1, and this market price and the auction price inputted from an input

device 20 by an auctioneer are switched, and the market price is stored in a market price memory 22 and is displayed on a market price monitor 23. The auction price stored in an auction price memory 7 and the market price stored in the memory 22 are compared with each other in a comparing circuit 24; and when the market price exceeds the auction price, a gate 26 is turned off and a gate 25 is turned on by the output of the circuit 24. An adding circuit 10 is driven by the output of the gate 25, and a certain price is added to contents of the memory 7, and the result is stored in the memory 7 and is displayed on an electric lighting board 2. The auction price is raised until it exceeds the market price, thus setting the price flexibly and effectively.

COPYRIGHT: (C) 1983, JPO&Japio

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—161067

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>  
G 06 F 15/21  
G 07 C 13/00

識別記号

庁内整理番号  
6619—5B  
8109—3E

⑭ 公開 昭和58年(1983)9月24日

発明の数 1  
審査請求 有

(全 4 頁)

⑮ 自動せり機の価格誘導方式

稲城市矢野口1776番地富士通機  
電株式会社内

⑯ 特 願 昭57—43781

⑰ 出 願 人 東京都中古車卸売事業協同組合  
東京都足立区大谷田4丁目9番  
18号

⑱ 出 願 昭57(1982)3月19日

⑲ 発 明 者 高橋隆次

⑳ 出 願 人 富士通機電株式会社  
稲城市矢野口1776番地

東京都足立区大谷田4丁目9番  
18号東京都中古車卸売事業協同  
組合内

㉑ 発 明 者 前島伸行

㉒ 代 理 人 弁理士 松岡宏四郎

明 細 書

1. 発明の名称

自動せり機の価格誘導方式

2. 特許請求の範囲

販売希望価格を格納するメモリを有し、応札者が複数の場合せり価格を順次上昇させて、せりを行う自動せり機において、市場価格を格納するメモリを設け、市場価格とせり価格を比較し、せり価格が市場価格以上になるまでは、せり価格の上昇を続けるようにしたことを特徴とする自動せり機の価格誘導方式。

3. 発明の詳細な説明

〔発明の技術分野〕

本発明は、自動せり機におけるせり価格の誘導に関するものである。

〔技術的背景〕

自動せり機においては、電光掲示板に表示された価格に対し、出品された商品を買取意志があるか否かを応札部でセンター側の装置に通知し、複数の買手があれば価格を上昇してゆき、一人の買

手になったところで、売手の希望価格と比べそれより上か下かで落札、流札を決めている。

そして、この取引は迅速化が要求され、落札、流札の決定が速やかに行われるが、買手はせりの最初の段階(せりスタート直後)では応札せず、買手の予想する相場に近づいてから応札部を押し始めるケースが増えてきた。

そのため、買手の予想する相場に近づくまいちに応札者が一人となって、流札に至るケースが増えてきたことから、かかる買手、売手に対する不都合がないように、適切な価格の誘導が望まれるようになってきた。

〔従来技術と問題点〕

第1図は、従来の自動せり機を示したものであり、先ずせり機本体1において、せり開始前に、テンキーからなる入力装置4より販売希望価格を入力し、販売希望価格メモリ5にその価格を格納する。

この販売希望価格メモリ5に格納された内容は希望価格モニター6に表示され、売手はこのモニ

ター6を見て希望価格が確認できる。一方、せり価格メモリ17には、図示せざる計算機より、せり商品の初期価格が格納されており、この初期価格が電光掲示盤2に表示されている。

この状態からスタートし、買手は端末機31～3nのうち自己の使用する端末機の押釦を押す(応札する)と、せり機本体1では、端末釦読取回路8で押釦の押下状態を検出する。この検出結果は、応札人数判断回路9に通知され、2人以上の応札者があつたことが分ると、加算回路10を駆動し、せり価格メモリ7の値に、予じめ決められた一定価格、例えば1000円を加算し、再びせり価格メモリ7に格納する。そこで、電光掲示盤2もこの加算結果の価格を表示する。

この様にして順次、表示価格が上昇するが、押釦を押す買手が一人になると、加算回路10は駆動されず電光掲示盤2の表示価格の上昇は停止する。

一方、この場合はコード番号読取回路12が応札人数判断回路9より駆動され、端末釦読取回路

8を介して、押釦押下中の端末機に予じめ差し込まれている買手の登録カードのコード番号を読取る。この読取結果はコード番号メモリ13に一旦格納される。それと共に、応札人数判断回路9は、タイマ11を駆動する。そこでタイマ11は、一定時間(数秒程度)経過後、その出力信号によりゲート14、15を導通状態にする。

そこで、これらゲート14、15を介して、販売希望価格メモリ5の内容と、せり価格メモリ7の内容が比較回路16に入力される。この比較回路16では入力された両価格の比較を行い、せり価格が販売希望価格以上であれば、出力線161に信号を出し、登録回路17でそのときの商品名に対応して落札の旨登録すると共に、コード番号メモリ13の内容を登録する。

即ち、コード番号によつて示される買手がどの商品を落札したかが登録される。これに対し、せり価格が販売希望価格より下であれば、出力線162に信号を出し、登録回路17ではそのときの商品名に対し流札の旨のみ登録される。

#### 【発明の実施例】

本発明の一実施例を第2図に示す。

図中、第1図と同一符号は同一機能を示す。ここで、第1図と異なるのは価格誘導装置19を設けたことである。

即ち、計算機18では取扱い商品に関する最近の取引実績、例えばこの2ヶ月間の取引実績を平均した市場価格を算定しておく。そして、価格誘導装置19の図示せざる切替スイッチの操作により、切替回路21を駆動し、市場価格メモリ22に計算機18からの市場価格を入力するか、或は、入力装置20からせり人のキー操作で予想される市場価格、若しくは販売希望価格を入力するかを選択する。入力された市場価格は市場価格メモリ22に格納されると共に、市場価格モニター23で表示され、せり人はその市場価格を確認することができる。

一方、市場価格メモリ22に格納された価格と、せり機本体1のせり価格メモリ7に格納された価格とは、比較回路24で比較<sup>され</sup>ており、市場価格

この様に、従来の自動せり機においては応札者が一人になると直ちに落札か流札かを決定してしまふため、商品の予想相場に近づいて応札を始めようとしてる人が大勢いるにも係わらず、その相場よりはるかに下の段階で落札が決定してしまい、商品の取引に支障を来す場合があつた。

#### 【発明の目的】

本発明は、かかる欠点に鑑み、妥当な商品価格で買いたい希望を持った人がいる場合は、その人にも充分買う機会を与えようとすることを目的とする。

#### 【発明の構成】

本発明は、上記目的を達成するために販売希望価格とせり価格を格納するメモリを有し、応札者が複数の場合せり価格を順次上昇させてせりを行う自動せり機において、市場価格を格納するメモリを設け、市場価格とせり価格を比較し、せり価格以上になるまでは、せり価格の上昇を続けるようにした自動せり機の価格誘導方式を提供したものである。

がせり価格を上回る場合は、その比較回路24の出力でゲート25を普通状態とし、ゲート26を非普通状態とする。逆に、市場価格がせり価格以下であると、比較回路24の出力でゲート25を非普通状態とし、ゲート26を普通状態とする。そこで、或る商品のせりが進行し、応札者が一人以下になったとき、応札人数判断回路9からは出力線91に出力信号が現われるが、せり価格が市場価格以上でなければゲート26によりタイマ11やコード番号読取回路12は駆動されない。ところが、ゲート25により加算回路10が駆動され、せり価格メモリ7の内容に一定価格加算された値が、せり価格メモリ7に格納されると共に、電光掲示板2に表示される。この様にして、たとえ応札者が少数であっても市場価格まではせり価格が上昇する。

そこで、市場価格付近になって、多数の応札者が出れば、第1図と同様にして落札、流札が決まる。

又、市場価格になっても誰も応札しなければ、

タイマ11が起動され、その商品に対し、コード番号なし、即ち、実質的には流札が登録回路17に登録される。

#### 〔発明の効果〕

以上より明らかな様に、商品の市場相場に近づいたとき応札を始めようとしている場合に、その相場よりずい分下の価格で取引が終了することがなく、売手、買手双方にとって極めて有効なものである。

又、せり商品に対し、どうしても販売希望価格まで買手の様子を見てほしいとの売手の要求があった場合、市場価格メモリにその値を入力するだけでよく、価格設定の融通性に富んだ極めて有効なものである。

#### 4. 図面の簡単な説明

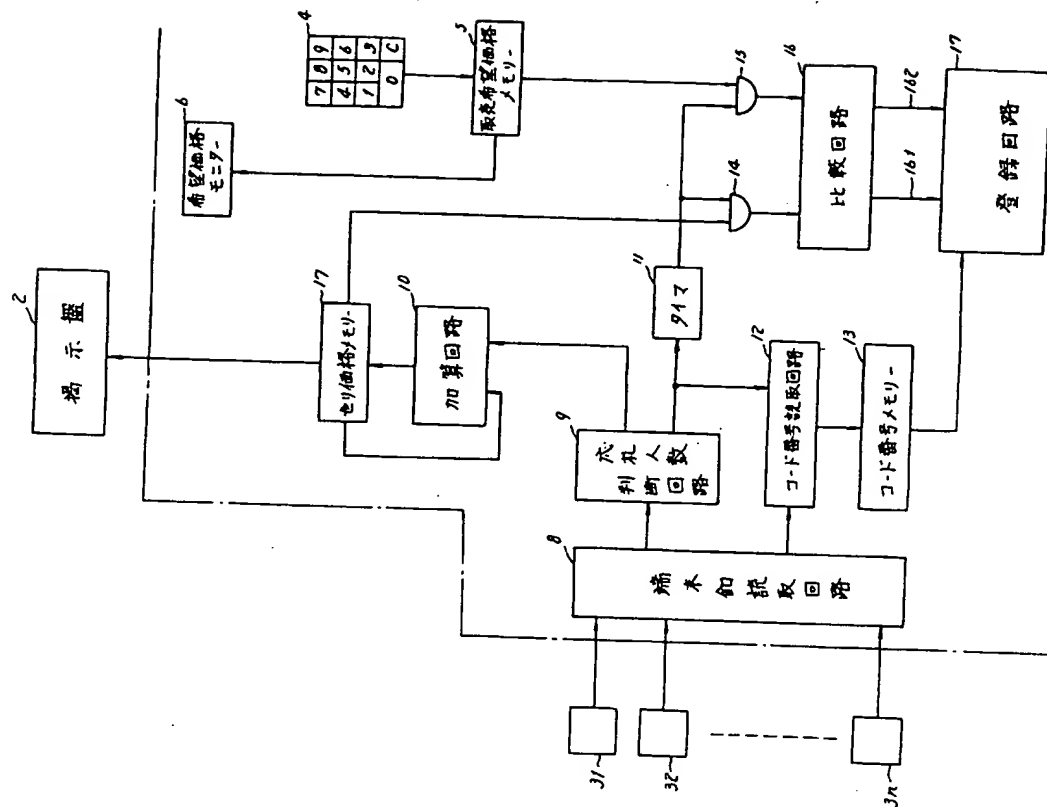
第1図は従来例、第2図は本発明の一実施例である。

図中、1はせり機本体、2は電光掲示板、31～3nは端末機、5は販売希望価格メモリ、7はせり価格メモリ、9は応札人数判断回路、10は

加算回路、16、24は比較回路、19は価格誘導装置、22は市場価格メモリである。

代理人 弁理士 松岡 宏四郎

第1図



第2図

